



株式
会社

中山製鋼所

証券コード 5408

第118期

(平成23年度)

中間報告

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで

CONTENTS

株主の皆様へ

▶ p. 1

連結業績の推移

▶ p. 3

連結財務諸表の概要

▶ p. 4

トピックス

▶ p. 5

会社の概要

▶ p. 6

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素よりご高配を賜り、心から厚くお礼申しあげます。

このたびの東日本大震災により被災されました皆様に謹んでお見舞い申しあげますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申しあげます。

さて、当社の平成23年度上半期（平成23年4月1日～平成23年9月30日）が終了いたしましたので、事業の概況につきまして、ご報告申しあげます。

平成23年11月

代表取締役社長

藤井 博務



事業の概況

当上半期におけるわが国経済は、東日本大震災により停滞していた生産活動も、サプライチェーンの復旧に伴い回復しつつありますが、電力の供給問題などの課題に加え、円高・株安の進行や欧州の財政不安がもたらす世界的な景気減速などもあり、先行きは不透明感が残る状況が続いております。

鉄鋼業界におきましては、東日本大震災による需要減や設備被害ならびに電力制限により減産を余儀なくされ、当上半期の国内粗鋼生産量は5,331万トンと前年同期に比べ3.8%減少いたしました。

当社グループにおきましては、一部の中継地、支店、営業所が被災し、一時的に物流機能の低下や営業活動を休止する事態となりましたが、速やかに被害状況の把握に努めて営業、生産体制を見直し、影響を最小限に抑えることができました。

〔鉄鋼事業〕

グループのコア事業である鉄鋼事業につきましては、前半は被災企業の代替生産などを含め鋼材販売量が前年同水準まで戻りつつありましたが、後半は震災復興の遅れによる鋼材需要の鈍化と輸入鋼材の影響などを受け、鋼材販売量は減少いたしました。

早急な収益回復のため、営業面では、採算重視の営業活動に徹し鋼材販売価格の適正化に努め、生産面では、一時的に節電の影響を受けたものの、自社電気炉は昼夜フル操業体制をとり、電気炉鋼の増産と適用拡大を図ってまいりました。

鉄鋼事業の売上高は、平成22年5月にコークス工場を休止したため、コークスにかかる売上高が減少したことにより、前年同期に比べ13億78百万円減収の772億71百万円となりました。経常損益は原燃料価格の上昇によるコストアップを、鋼材販売価格の改善や構造改革による固定費の削減など徹底したコストダウンでカバーしたものの、在庫影響などが響き、21億62百万円減益の20億32百万円の損失となりました。

〔エンジニアリング事業・化学事業他〕

エンジニアリング事業につきましては、建築需要の低迷と公共事業の縮小などにより受注が減少し、前年同期に比べ減収減益となりました。

また、化学事業につきましては、農薬の販売量増などにより僅かながら増収となりましたが、水処理剤の販売価格が円高の影響により低迷したことなどで減益となりました。

以上の結果、当上半期の連結業績につきましては、売上高は前年同期に比べ16億84百万円減収の866億78百万円、営業損益は22億80百万円減益の10億28百万円の損失、経常損益は19億7百万円減益の17億13百万円の損失となりました。また、前上半期に、鉄鋼事業の構造改革に伴う特別退職金や事業構造改善費用などを計上しましたが、当上半期には該当はなく、四半期純損益は4億36百万円減益の22億7百万円の損失となりました。

〔中間配当〕

当期の中間配当につきましては、2期連続の純損失と当四半期純損失の計上により財務状況が悪化していることから、誠に遺憾でございますが、前期の期末配当に引き続き無配とせざるを得ません。

このような業績になりましたことにつきまして、株主の皆様には誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。安定的に利益が確保できる体制を確実なものとし、早期の復配を目指す所存でございます。

今後の見通し ～早期の黒字化～

今後のわが国経済の見通しにつきましては、円高の継続に加え、海外景気の下振れ懸念も強まるなど、先行きは一段と不透明な状況となっております。

鉄鋼業界におきましては、当下半年以降、震災復旧・復興需要が一部で具体化する見通しですが、製造業の海外シフトに伴う需要減が懸念されています。加えて、円高による輸出環境の悪化や、中国や韓国の輸出増による供給過剰から市況は低迷しており、先行きは厳しさを増していくものと思われます。

このような厳しい情勢のもと、当社グループは、早期の黒字化に向け、間接部門も含め徹底したコスト削減に今後も全力で取り組んでまいります。

鉄鋼事業におきましては、鉄源の多様化、すなわち、割安な海外高炉鋼片や国内電気炉鋼片へのシフトを図ってまいります。これにより、素材コストを下げることで価格競争力をつけ、販売数量の回復を図るとともに、規格構成を見直して販売価格の改善に努めてまいります。また、電気炉鋼の適用拡大においては、当社電気炉の操業技術と熱延技術を組み合わせることにより、従来の電気炉鋼では製造が困難であった軟質系圧延製品の製造や従来の板厚より厚い圧延製品が製造可能になりました。これにより、新規ユーザーの開拓や工期・納期短縮を推進し、受注量の拡大を図ってまいります。中高級鋼の拡販においては、棒鋼製品に関して、加工性に優れた特性を持つ鋼材などの中高級鋼比率を高め、自動車や建設機械および産業機械向けなど新規ユーザーの開拓により、受注量を拡大し、収益の向上を図ってまいります。

また、次世代を支える新しい素材としてアモルファス金属に着目し、平成16年から独自に開発に取り組んでまいりました。平成22年7月にはNEDO（独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）の助成事業として採択され、平成23年3月に完成したアモルファス薄板試作ラインに改良を加えながら、より幅広で厚みのある高性能のアモルファス薄板を開発し、燃料電池部材等への適用に取り組んでおります。また、化学薬品ポンプ用軸スリーブへの適用に加えまして、株式会社サンエテックおよび国立大学法人東北大学と共同で、世界で初めてアモルファス溶射技術を適用した高感度、高速応答の磁歪（磁性材料に外部から磁界をかけると材料が伸びたり縮んだり変形する現象）式回転トルクセンサを開発し、平成23年10月には営業を開始しました。今後、電動アシスト自転車や自動車のパワーステアリング等への適用が期待されます。

当社グループにおきましては、早期の黒字化を達成するため、国内外の需要に見合ったフレキシブルな営業・生産体制を堅持しつつ、各社との連携により当社グループの全国拠点を最大限に活用し、地域・お客様に密着した品質・納期面でのきめ細かな対応を図り、顧客満足度の向上とコスト低減努力により、全社一丸となって、収益の回復に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、以上の事情をご賢察のうえ、今後ともなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

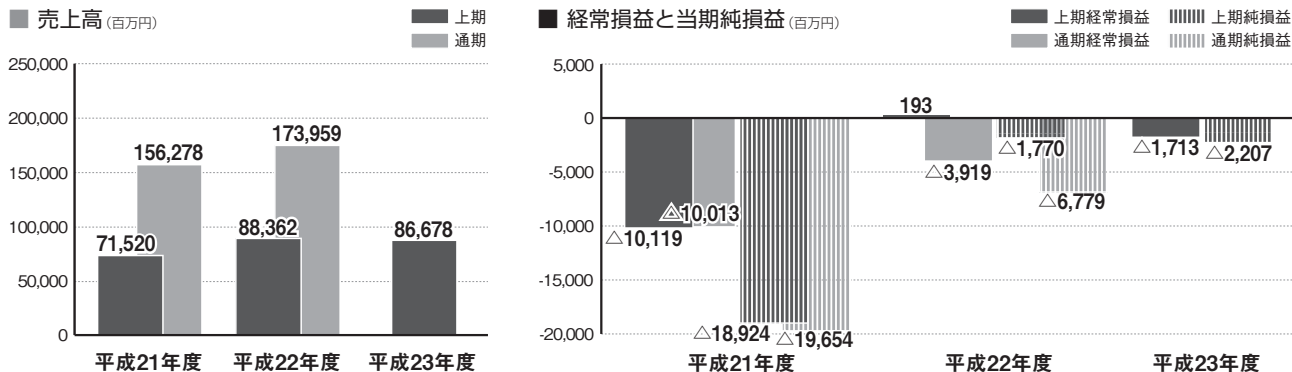
連結業績の推移

(平成23年9月30日現在)

財産および損益の状況

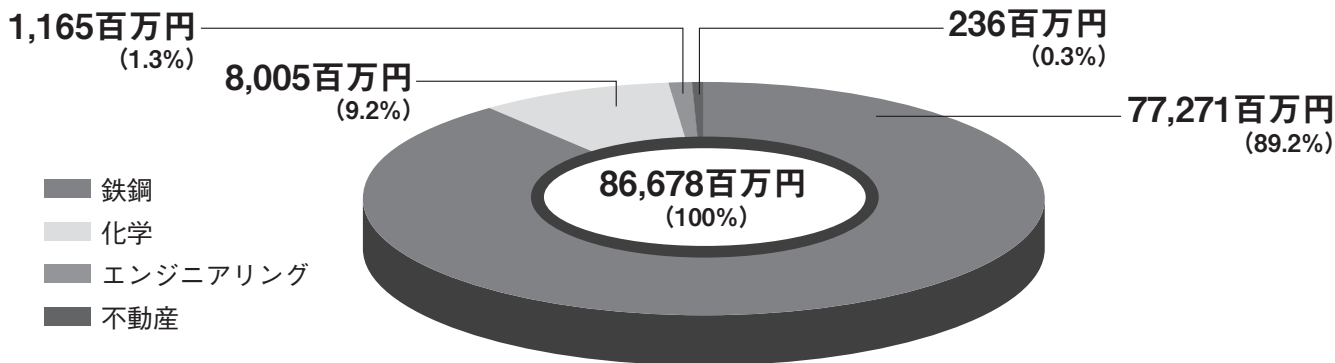
区分	年度・期	平成21年度		平成22年度		平成23年度
		上期	通期	上期	通期	上期
売上高	(百万円)	71,520	156,278	88,362	173,959	86,678
経常損益	(百万円)	△10,119	△10,013	193	△3,919	△1,713
当期(中間)純損益	(百万円)	△18,924	△19,654	△1,770	△6,779	△2,207
1株当たり当期(中間)純損益	(円)	△147.01	△152.68	△13.76	△52.66	△17.15
総資産	(百万円)	222,264	228,100	222,053	215,322	206,251
純資産	(百万円)	65,632	66,042	63,820	59,209	56,791
有利子負債	(百万円)	92,609	93,649	98,163	95,145	91,818

(注) △は損失を示しております。



セグメント別連結売上高

(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)



連結財務諸表の概要

● 連結貸借対照表 (平成23年9月30日現在)

(単位: 百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	80,204	流動負債	72,144
現金及び預金	11,142	支払手形及び買掛金	22,223
受取手形及び売掛金	32,884	短期借入金	44,042
有価証券	35	未払金	2,480
商品及び製品	14,976	未払費用	1,523
仕掛品	2,779	未払法人税等	402
原材料及び貯蔵品	15,923	賞与引当金	768
繰延税金資産	408	その他	702
その他	2,571	固定負債	77,315
貸倒引当金	△516	長期借入金	47,775
固定資産	126,047	繰延税金負債	8,152
有形固定資産	116,836	再評価に係る繰延税金負債	11,451
建物及び構築物(純額)	16,793	退職給付引当金	3,193
機械及び装置(純額)	34,348	役員退職慰労引当金	67
土地	64,306	環境対策引当金	200
その他(純額)	1,389	特別修繕引当金	6
無形固定資産	934	事業構造改善引当金	2,083
投資その他の資産	8,275	負ののれん	3,231
投資有価証券	6,462	その他	1,153
繰延税金資産	29	負債合計	149,459
その他	1,921	(純資産の部)	
貸倒引当金	△138	株主資本	20,309
資産合計	206,251	資本金	15,538
		資本剰余金	10,339
		利益剰余金	△4,969
		自己株式	△598
		その他の包括利益累計額	16,864
		その他有価証券評価差額金	489
		土地再評価差額金	16,375
		少数株主持分	19,617
		純資産合計	56,791
		負債純資産合計	206,251

● 連結キャッシュ・フロー計算書 (平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

(単位: 百万円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	548
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,689
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,071
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1
現金及び現金同等物の減少額	△5,214
現金及び現金同等物の期首残高	16,356
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,142

(注) 記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

● 連結損益計算書 (平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)

(単位: 百万円)

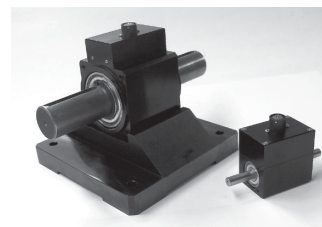
科 目	金 額
売上高	86,678
売上原価	80,458
売上総利益	6,219
販売費及び一般管理費	7,248
販売費	3,519
一般管理費	3,728
営業損失	1,028
営業外収益	663
受取利息	15
受取配当金	90
負ののれん償却額	164
不動産賃貸料	133
その他	260
営業外費用	1,348
支払利息	717
その他	631
経常損失	1,713
特別利益	136
事業構造改善引当金戻入額	132
固定資産売却益	3
特別損失	64
固定資産除却損	64
税金等調整前四半期純損失	1,642
法人税、住民税及び事業税	374
法人税等調整額	△113
少数株主損益調整前四半期純損失	1,902
少数株主利益	305
四半期純損失	2,207

〔アモルファス事業〕

磁歪式回転トルクセンサを開発

当社のアモルファス事業において、株式会社サンエテック（大阪市）および国立大学法人東北大学と共同で、世界で初めてアモルファス溶射技術を適用した、高感度、高速応答の磁歪式回転トルクセンサを開発することに成功いたしました。磁歪式回転トルクセンサは、電動自転車などのパワーアシストや各種モータの制御用として、利用されております。

開発しましたトルクセンサは、金属ガラスの溶射皮膜を形成しており、従来品よりも耐久性、耐振動において高い信頼性を得ています。今後も、さらに幅広い用途に対応できるよう、研究開発を進めてまいります。



磁歪式回転トルクセンサ

〔CSR（企業の社会的責任）への取り組み〕

**一般社団法人 日本鉄鋼連盟主催
第73回自主管理活動発表大会「感動大賞」受賞**

本年10月、一般社団法人 日本鉄鋼連盟主催の第73回自主管理活動発表大会が神戸市で開催されました。48件の事例発表の中、当社からは3件の発表を行い、すべてが「感動賞」を受賞し、その内1件は最優秀賞にあたる「感動大賞」を受賞いたしました。

感動大賞に選ばれたのは、当社グループ会社の三星海運株式会社で、本大会唯一の女性による発表でした。

当社は、平成18年第68回自主管理活動発表大会以来、6年連続で感動賞を受賞しております。


地元公道の清掃活動

当社では、良き企業市民としての責任を果たすために、平成4年から社屋前の公道をはじめ、地元の大正通りの清掃ボランティアを定期的 to 実施しております。今後も活動を続け、地域への社会貢献に努めてまいります。


小学生の工場見学

当社では、小学生が鉄鋼業に接する機会を増やすために積極的に工場見学の受け入れを実施しております。

本年、玉川小学校（大阪市）と菱屋西小学校（東大阪市）の5年生が熱延工場を見学し、製造現場や環境への取り組みについて学びました。



会社の概要

(平成23年9月30日現在)

主要な事業内容

事業	主要品目		
鉄鋼事業	鋼材	銅板	熱延鋼帯、厚板、中板、縞板、鍍金鋼帯
		条鋼	線材、バーインコイル、棒鋼、軽量C形鋼、パイプ、線材二次製品、高力ボルト
	銅片、副産物等		
エンジニアリング事業	建設（建築総合工事）、海洋（鋼製魚礁・増殖礁）、ロール、バルブ、産業機械		
不動産事業	不動産の賃貸・売買		
化学事業	化学工業薬品		

会社設立 大正12年(1923年)12月22日

資本金 15,538,509,066円

従業員の状況

連結 1,583名
(当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む)
単独 768名
(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む)

主な事業所

[本社・船町工場]
〒551-8551 大阪市大正区船町一丁目1番66号
電話／06-6555-3111(総合案内) FAX／06-6555-3170

[東京営業所]
〒100-0006 東京都千代田区有楽町一丁目9番4号 蚕糸会館
電話／03-5220-7330(代表) FAX／03-5220-7333

会計監査人 有限責任 あずさ監査法人

連結子会社 (8社)

中山三星建材株式会社、中山通商株式会社、三星商事株式会社
三星海運株式会社、南海化学株式会社、中山興産株式会社
三泉シヤー株式会社、富士アミドケミカル株式会社

持分法適用会社 (1社)

株式会社NSボルテン

役員

代表取締役社長	藤井博務
取締役	箱守一昭
取締役	渡邊秀幸
取締役	吉村敏男
取締役	山本有啓
取締役	松岡雅夫
取締役	若杉昌夫
監査役(常勤)	笹部隆夫
監査役	福西惟次
監査役	榎本比呂志

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領 株主確定日	毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座 管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京、大阪
公告の方法	電子公告 http://www.nakayama-steel.co.jp/ ただし、電子公告によることができない 事故その他のやむを得ない事由が生じた ときは、日本経済新聞に掲載して行う。

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

単元未満株式をご所有の株主様へ 単元未満株式(1～999株)の買取・買増制度のご案内

当社では、市場でお取引できない単元未満株式（1～999株）の買取制度および買増制度を採用しております。手数料は無料ですので、ぜひご活用ください。

※買取制度：ご所有の単元未満株式(1～999株)を当社が買い取らせていただく制度です。

買増制度：単元未満株式をご所有の場合に、あわせて1,000株にするのに必要な株式を当社から市場価格で買い増しすることができる制度です。

特別口座で株式をご所有の株主様へ

2009年1月5日から実施された株券の電子化に際して、株式会社証券保管振替機構（株券を証券会社を通じて「ほふり」に預託）をご利用されなかった当社株式につきましては、三菱UFJ信託銀行株式会社に開設された「特別口座」にその内容が記録されました。

特別口座においては、単元未満株式の買取をご利用の場合を除き、株式を売買することができませんので、特別口座で株式をご所有の株主様におかれましては、ご所有の当社株式を証券会社のお取引口座へお振替えされることをおすすめいたします。

【お問い合わせ先】

＜証券会社等の口座に株式をご所有の株主様＞

口座を開設されている証券会社等

＜特別口座で株式をご所有の株主様＞

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部



**NAKAYAMA
STEEL WORKS, LTD.**

<http://www.nakayama-steel.co.jp/>



この冊子は環境に配慮した植物油インキを使用しています。